

現在、各学校では、臨時休業中に再編成した教育課程に基づき、教育活動を再開したところではないかと思えます。臨時休業明けの学校の取組を支援するために、引き続きメール・マガジン「スクラム」の臨時号を発行いたします。是非御活用ください。

（東京都教育委員会ホームページアドレス <https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/>）



こんなときどうしますか？～就学前施設での保育を参考にして～

長かった臨時休業が終わり、学校が久しぶりに再開されてから1週間が過ぎましたが、子供たちの様子はいかがでしょう。小学校生活が始まって間もない1年生にとっては、初めて出会う友達や先生、新しく始まる学習などに早く慣れようと、毎日、頑張っているのではないかと思います。

先月26日に発行した「スクラム臨時号No.3」では、子供たちが、就学前施設で培ってきた力を発揮できるような雰囲気をつくり出すことの大切さと実践例をお伝えしました。今回はその第2弾として、就学前施設で行われている保育を参考に、児童一人一人の心情に寄り添った関わり方を紹介します。

私が話し掛けても返事をせず、表情がとても硬い児童がいます。休み時間も、友達とおしゃべりを楽しんだり、楽しそうに関わったりする姿が見られず、自分の席にじっと座っています。どうしたらよいでしょうか。



1年生の担任

私も同じような経験をしたことがあります。A児と関わったときのことを紹介しますね。



5歳児の担任

A児は慎重な性格です。4歳児まで一緒に遊ぶことの多かった友達とは、5歳児では別の学級になりました。私はA児が友達と関わるきっかけをつくらせようと、「Aさんも一緒に鬼ごっこやろうよ。」と誘ったのですが、A児は首を横に振り、不安そうな表情をしていました。その後、A児は、学級の友達が保育室や園庭でやりたい遊びに取り組んでいる様子を見ていました。

そこで私は、A児を鬼ごっこに誘うのをやめ、「一緒に遊びたくなったら教えてね。困ったことがあったら先生に言ってね。」と、A児が安心感をもてるように声を掛けました。すると、A児は友達が遊んでいる様子を見ながら、次第にほほえむようになっていきました。



1年生の担任

なるほど。不安な気持ちが原因であっても「黙って周囲の様子を見る子」、「教師に甘え、べったりと関わろうとする子」、「友達と一緒にいることで安心できる子」など、表現の仕方は、一人一人異なるのですね。

児童の「姿」からその心情を読み取り、寄り添うように声掛けなどをしていくことが大切だと分かりました。早速、明日から心掛けてみたいと思います。

ポイント

- ① 焦らずに児童との温かい関係を育てていきましょう。
- ② 見方を変え、児童の立場で物事を見たり、言動を受け止めたりしてみましよう。
- ③ 児童一人一人が発しているサインを丁寧に受け止め、内面を理解していきましょう。
- ④ 一時の児童の姿で評価せず、学校生活を共にする中で、児童の成長を捉えましよう。

（参考資料） 文部科学省「幼児理解に基づいた評価」平成31年3月
第2章 1. 保育における幼児理解と評価 (1) 教師の姿勢 より